

新型コロナウイルスへの人々の対策行動—アンケート調査結果から¹

石井健一（文教大学 情報学部情報社会学科）²

キーワード：新型コロナウイルス、対策行動、リスク、感染、一般人の意識、アンケート調査

2019年11月に中国武漢で最初に症例が報告された新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)は、日本では2020年1月に最初の感染者が確認された。横浜港のクルーズ船の感染者を含めると2月27日現在、891人の感染者が報告されている。政府は大規模なイベントや集会の自粛を要請しており、2月27日には首相から各地で学校の休校の要請もあり、社会的な影響が広がった。医療などの政策的な対策だけでなく、図1に列挙されているような対策行動を個人が実行するということが、感染の拡大を防ぐという意味で社会的にも重要になっている。しかし、日本では2009年の新型インフルエンザの流行における一般人の対応行動の研究例はあるが（中谷内2009、及川・及川2010）、今回の新型コロナウイルスは、高齢者に特に危険とされるなど、ウイルスがもたらすリスクは新型インフルエンザとは異なっているようである。

このような状況において、人々の新型コロナウイルスへの対策行動の実態とその社会心理学的な要因を探るため、筆者はオンラインで800人を対象にアンケート調査を実施した。本稿は、その記述分析の結果を中心とした第一次報告を行うものである。

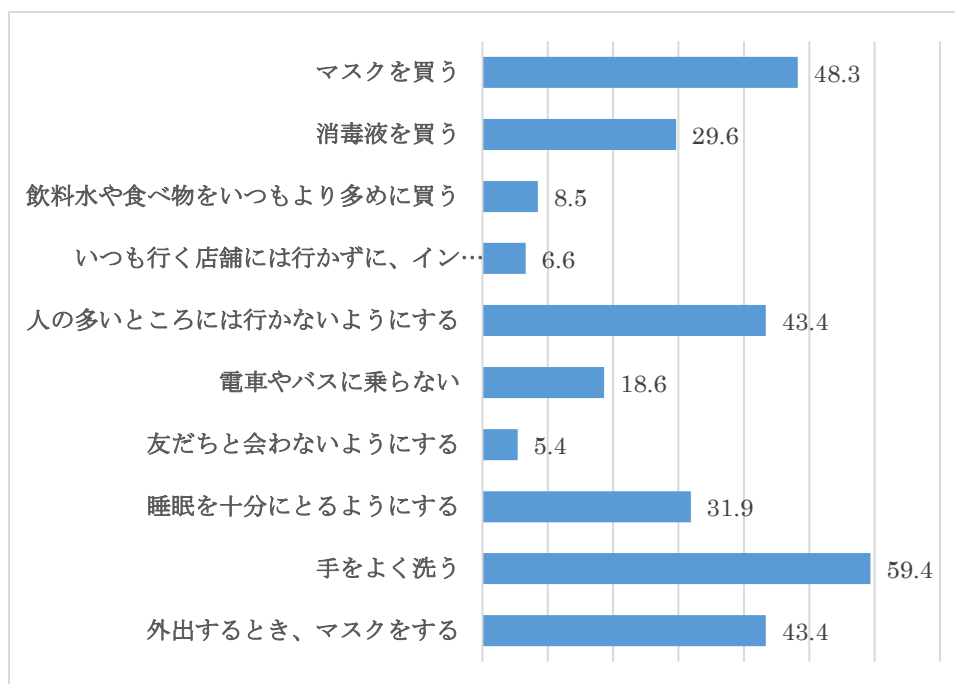


図1 新型コロナウイルスへの対策行動の実行（数字は本調査結果、%）

¹ 2020年3月11日 http://open.shonan.bunkyo.ac.jp/~k_ishii/SARSCoV2.pdf

² 連絡先 ishiiken [at] shonan.bunkyo.ac.jp 本調査は2019年度文教大学情報学部個人研究経費によって実施された。

研究方法

株式会社アイブリッジのアンケートシステム freeasy を利用してオンラインモニター800 人に回答を求めた。調査実施日は、2020 年 2 月 20 日である。調査タイトルは「生活とトレンド」とし、対象は 18 歳以上の男女とした。ただし、年齢層が偏らないように、20 代、30 代、40 代、50 代、60 代、70 歳以上の男女同数各 64 人とし、10 代(18-19 歳)は男女各 16 人に割り当てた(最終回答者数は男女各 400 人の合計 800 人)。回答に要した時間の平均値は 253.9 秒(標準偏差 353.7 秒)、中央値 191 秒であった。なお、すべての質問を回答必須としたので、以下の全ての変数において欠損値はない。

回答者の属性についてみると、平均年齢 48.4 歳(標準偏差 17.5)、既婚者 58.4%、子供ありが 51.4%であった。また、最も多い職業カテゴリーは「会社員(正社員)」28.5%、「専業主婦」16.8%、「無職」18.5%、「パート・アルバイト」13.0%などとなっている。

さらに、調査時点では感染者が発生したのは 11 都道府県(北海道、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、三重県、京都府、大阪府、奈良県、和歌山県、沖縄県)。ただし、調査日に福岡県で感染者が判明したがこれは含まないであったが、これらの都道府県の回答者が 437 人(54.6%)、感染者がいない都道府県の回答者が 363 人(45.4%)であった。なお、本研究はインターネット調査によるものであるため、結果の代表性は必ずしも保証されていないことに留意されたい。

調査票の構成は、Q1 が一般的な意識項目(ライフスタイルやナショナリズム意識)、Q2 がメディア接触、Q3 以下が新型コロナウイルスに関する項目となっている。

Q3 の項目 1 から 7 は、新型コロナウイルスの流行がもたらす様々なリスクの認知についての質問である。続く項目 8 から 10 は、リスクの認知に対応して、政府の対策への態度を質問したものである。Q4 は、新型コロナウイルスへの対策行動についてたずねたものである。Q5 の項目 1 から 5 は新型コロナウイルスに対する関心度を測定することを目的としたものである。項目 6 と 7 は、この問題に関してどの程度人と会話をする可能性があるかを調べたものである。項目 8 と 9 は、この問題に対する無力感の程度、項目 10 から 13 はメディアの報道に対する態度をたずねたものであり、最後の項目 14 と 15 は日本政府および中国政府へのこの問題に対する態度を測定したものである。Q6 は、新型コロナウイルスに関する知識を測定することを目的とした質問であるが、明らかに間違った項目も含めてある。筆者が「正しい」項目であると意図して作ったものは、「普通のマスクをしていても感染する」「感染を防ぐために手洗いをすべきである」「感染の可能性があるところでは換気をよくすべきである」「感染しても発症しない人がいる」「インフルエンザよりも致死率が高い」「エレベーターのボタンや階段の手すりからも感染する」である。

本稿では、これらの項目のうち、特に Q3 以下の新型コロナウイルスに関する質問に関する結果を中心として報告することにする。

分析結果

1) 記述統計の結果

結果の単純集計(回答分布)は最後の付録に示した。また、新型コロナウイルスに関する各項目の平均点は表 1、行動などの選択比率は表 2 に載せてある。表 1 の Q3 の平均点をみると「新型コロナウイルスの流行は、日本の経済を悪化させる」(3.92)と「中国全土からの中国人の日本への入国を禁止すべきだった」(3.75)、「日本政府は、この問題で中国に配慮しすぎている」(3.63)が高く(各 5 点尺度)、これらの項目を人々が強く肯定していることがわかる。また、Q5 の項目では、

「新型コロナウイルスに関するニュースを、関心をもって見ている」や「新型コロナウイルスの最新の状況を知りたい」の平均点が高く、この問題への人々の関心度が高いことがわかる。

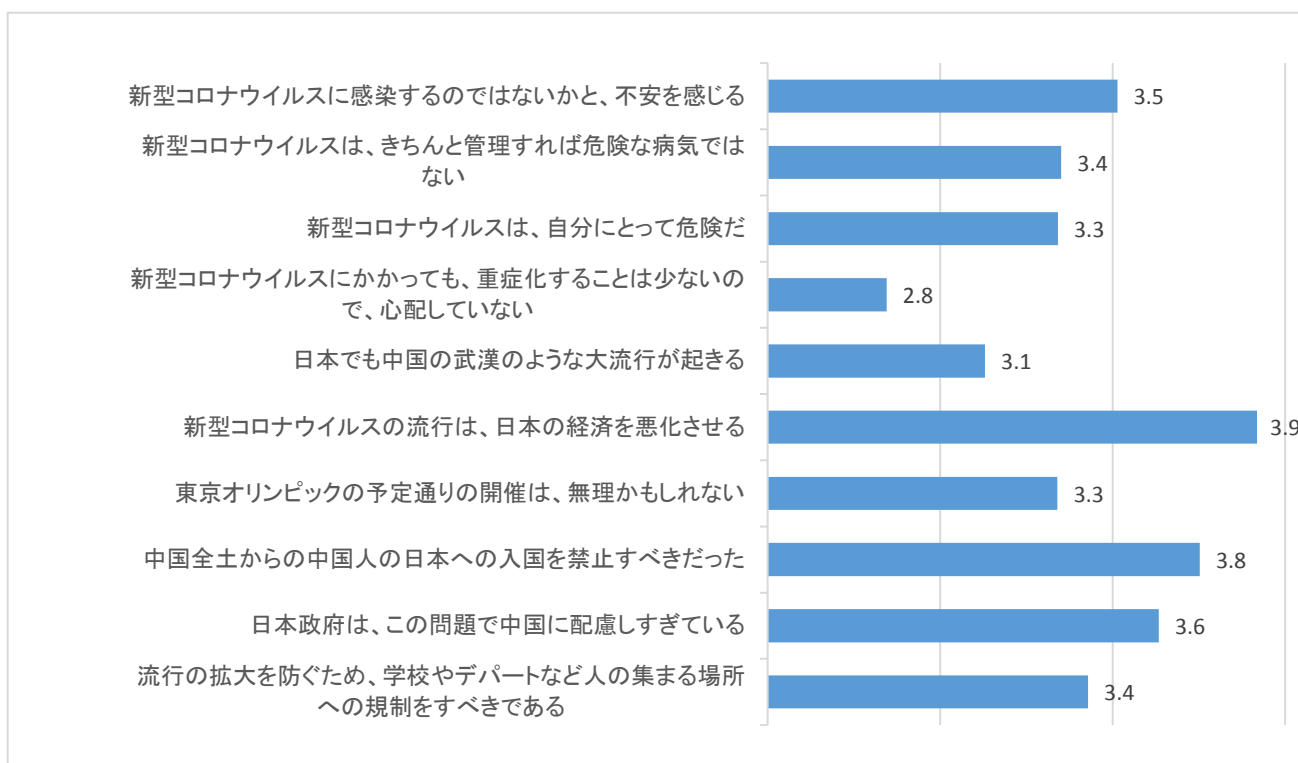


図 1 新型インフルエンザとその政府の対策に対する意識(平均点)

対策行動(Q4)で多くみられたのは、「マスクを買う」(48.3%),「人の多いところには行かないようにする」(43.4%),「手をよく洗う」(59.4%),「外出するとき、マスクをする」(43.4%)であった。

また、新型コロナウイルスに関する認知についての質問(Q6)では、「普通のマスクをしていても感染する」(57.0%)、「感染を防ぐため手洗いをすべきである」68.6、「感染の可能性があるところでは、換気をよくするべきである」(43.5%)、「感染しても発症しない人がいる」(55.9%)、「エレベーターのボタンや階段の手すりからも感染する」(50.6%)の肯定率が高かった。一方、報道では子供の重症者は少ないとされるが、「15歳以下の子供は重症化しない」の肯定率は14.5%のみであり。人々が子供へのリスクを人々が強く認識していることがわかる。

2) 年齢・性別との関係

新型コロナウイルスは感染した場合のリスクが高齢者ほど高いことが報道されている。したがって、対策行動は年齢によって違いがあると予想される。具体的には年齢が高いほど、関心や対策行動が高いと予想される。

表 1³は、不安に関してはこの予想は必ずしも正しくないことを示している。新型コロナウイルスに関する色々な意見や行動に対する平均値(5点尺度で点が高いほど当該の項目を肯定する程

³ F値は平均値の差(分散分析)の検定結果を示す。有意水準は、*p<.05, **p<.01, ***p<.001(以下の分析結果で同様の表記を用いる)

度が高い)を示したものである。「重症化することは少ないので心配していない」は予想に反して年齢による差が見られない(差が統計的に有意ではない)。「日本でも中国の武漢のような大流行が起きる」では若者の方が肯定する度合いが有意に高い。「新型コロナウイルスの流行は、日本の経済を悪化させる」については、逆に年齢が高い者の方が肯定する程度が有意に高い。若者は流行が大きくなることを意識はしているが、その結果の深刻性はあまり強く認識していないようである。

高齢者は新型コロナウイルスの情報に対して強いニーズを示した。「新型コロナウイルスに関するニュースを、関心をもって見ている」「新型コロナウイルスの流行に関する色々な情報を集めたい」「新型コロナウイルスの最新の状況を知りたい」様々な情報について、何が正しいのかをいつも考えている」「新型コロナウイルスへの対応について、自分でもいろいろと考えている」「対策を家族と話し合っている」の各項目において、年齢が高い回答者の方で肯定する程度が高くみられた。ただし、「対策を職場の人と話し合っている」については正社員比率が高い40~59歳が最も強く肯定した。また、高齢者の方が「感染者のプライバシーを守るより、人々の安全のために、もっと情報(感染者の市町村など)を出すべきである」が示すように、プライバシーよりも情報公開をより重視している。一方、メディアの報道に強い不信感を示しているのが若年層である。「新聞やテレビなど大手メディアの情報は信頼できないと思う」は、18~39歳および40~59歳がそれ以上の年齢層に比べて高い得点を示している。

表2は対策行動の実行比率を年齢別に比較したものである。ほとんどの行動が年齢が高い者ほど比率が高くなっている。「消毒液を買う」「飲料水や食べ物をいつもより多めに買う」「いつも行く店舗には行かずに、インターネットで注文する」「人の多いところには行かないようにする」「電車やバスに乗らない」「友だちと会わないようにする」「睡眠を十分にとるようにする」「手をよく洗う」「外出するとき、マスクをする」は、すべて年齢が高くなるほど行う比率が有意に高い。ただし、「いつも行く店舗には行かずに、インターネットで注文する」だけは、若者の方で比率が高くなっている。特に「人の多いところには行かないようにする」や「電車やバスには乗らない」が、60歳以上の比率が18~39歳の約2倍になっている。

年齢とくらべて性別は、ほとんどの項目で差がみられなかった。ただし、いくつかの項目で男女の間に有意差が見られ、それらの項目では、全て女性の方がリスクを厳しく認識しているという点で一貫していた。これは、一般に女性の方が男性よりもリスクを強く認知するという先行研究(上市2012)の結果と合致している。

具体的には、「中国全土からの中国人の日本への入国を禁止すべきだった」(男性=3.85,女性=3.68, $F=4.7, p<.05$)、「手をよく洗う」(男性=54.8%, 女性=64.0%, $\chi^2=7.1, p<.01$)、「外出するとき、マスクをする」(男性=35.3,女性=51.5%, $\chi^2=21.5, p<.001$)、「新型コロナウイルスに関するニュースを、関心をもって見ている」(男性=3.03,女性=3.15, $F=4.4, p<.05$)、「新型コロナウイルスの最新の状況を知りたい」(男性=2.98, 女性=3.12, $F=6.2, p<.05$)、「日本で新型コロナウイルスが流行したのは、中国政府に責任があると思う」(男性=2.81, 女性=2.97, $F=6.2, p<.01$)である。

表 1 各項目の年層別の平均点

	全体		年齢			F値	
	平均	標準偏差	18～39	40～59	60～		
新型コロナウイルスに感染するのではないかと、不安を感じる	3.51	1.14	3.47	3.48	3.60	1.1	
新型コロナウイルスは、きちんと管理すれば危険な病気ではない	3.35	1.00	3.28	3.39	3.38	1.0	
新型コロナウイルスは、自分にとって危険だ	3.34	1.03	3.27	3.30	3.45	2.3	
新型コロナウイルスにかかっても、重症化することは少ないので、心配	2.85	1.07	2.84	2.94	2.75	2.1	
日本でも中国の武漢のような大流行が起きる	3.13	1.01	3.29	3.09	2.99	6.4	**
新型コロナウイルスの流行は、日本の経済を悪化させる	3.92	0.94	3.75	3.90	4.12	10.7	***
東京オリンピックの予定通りの開催は、無理かもしれない	3.34	1.03	3.32	3.30	3.40	0.7	
中国全土からの中国人の日本への入国を禁止すべきだった	3.75	1.11	3.70	3.79	3.77	0.6	
日本政府は、この問題で中国に配慮しすぎている	3.63	1.06	3.53	3.66	3.73	2.4	
流行の拡大を防ぐため、学校やデパートなど人の集まる場所への規制	3.43	0.96	3.39	3.38	3.53	2.0	
新型コロナウイルスに関するニュースを、関心をもって見ている	3.09	0.79	2.83	3.07	3.41	41.2	***
新型コロナウイルスの流行に関する色々な情報を集めたい	2.85	0.81	2.74	2.82	3.02	8.4	***
新型コロナウイルスの最新の状況を知りたい	3.05	0.80	2.85	3.04	3.27	19.8	***
様々な情報について、何が正しいのかをいつも考えている	2.98	0.77	2.83	2.98	3.15	12.2	***
新型コロナウイルスへの対応について、自分でもいろいろと考えている	2.76	0.80	2.67	2.71	2.91	7.0	***
対策を家族と話し合っている	2.52	0.90	2.33	2.56	2.69	11.6	***
対策を職場の人と話し合っている	2.18	0.98	2.28	2.32	1.91	14.2	***
対策を立てても、個人ではどうしようもないと思う	2.69	0.77	2.70	2.75	2.62	1.9	
ウイルスの脅威の前には、人間の力は無力であると思う	2.80	0.76	2.81	2.87	2.71	2.9	
感染者のプライバシーを守るより、人々の安全のために、もっと情報（感染者の市町村など）を出すべきである。	2.89	0.80	2.81	2.81	3.05	7.6	***
メディアの報道は楽観的すぎると思う	2.65	0.80	2.60	2.65	2.71	1.3	
メディアの報道には矛盾する情報もあると思う	2.93	0.75	2.85	2.96	2.97	2.2	
新聞やテレビなど大手メディアの情報は信頼できないと思う	2.55	0.76	2.60	2.62	2.43	4.8	**
政府の発表する情報は信頼できないと思う	2.72	0.79	2.67	2.77	2.71	0.9	
日本で新型コロナウイルスが流行したのは、中国政府に責任があると思う	2.89	0.85	2.81	2.89	2.98	2.7	

表 2 年齢層ごとの行動の比率

	全体%	18～39	40～59	60～	カイ2乗値	
マスクを買う	48.3	45.8	47.7	51.6	1.8	
消毒液を買う	29.6	27.1	26.2	35.9	7.2	*
飲料水や食べ物をいつもより多めに買う	8.5	9.4	9.4	6.6	1.7	
いつも行く店舗には行かずに、インターネットで注文する	6.6	9.0	7.0	3.5	6.8	*
人の多いところには行かないようにする	43.4	29.5	42.6	59.8	50.6	***
電車やバスに乗らない	18.6	14.6	12.9	28.9	26.5	***
友達と会わないようにする	5.4	6.6	3.9	5.5	1.9	
睡眠を十分にとるようにする	31.9	23.6	28.1	44.9	30.8	***
手をよく洗う	59.4	48.3	58.2	73.0	34.7	***
外出するとき、マスクをする	43.4	37.2	39.5	54.3	18.6	***
あてはまるものはない	12.8	17.0	13.3	7.4	11.3	**

また、対策行動についてみると、「感染を防ぐため手洗いをすべきである」(男性=63.5%,女性=73.8%, $\chi^2=9.76^4$, $p<.01$)、「感染の可能性があるところでは、換気をよくするべきである」(男性=38.8%, 女性=48.3%, $\chi^2=7.34$, $p<.01$)、「感染しても発症しない人がある」(男性=51.3%, 女性=60.5%, $\chi^2=6.9$, $p<.01$)、「アルコールではウイルスを消毒できない」(男性=5.8%, 女性=14.8%, $\chi^2=17.61$, $p<.001$)、「世界の死亡者数は、インフルエンザの死亡者数を上回っている」(男性=8.5%, 女性=14%, $\chi^2=6.059$, $p<.05$)、「エレベーターのボタンや階段の手すりからも感染する」(男性=42.0%, 女性=59.3%, $\chi^2=23.809$, $p<.05$)の比率において、すべてで女性の肯定率が有意に高かった。

3) 感染者の有無による地域差

前述したように調査時点では、感染者が発生したのが 11 都道府県、未発生都道府県が 36 であった。発生県と未発生県についての回答を比較したところ、意識面での違いが多く見られた。

具体的に差があった項目をみると、「新型コロナウイルスは、きちんと管理すれば危険な病気ではない」(発生県=3.43, 未発生県=3.28, $F=4.42$, $p<.05$)、「日本でも中国の武漢のような大流行が起きる」(発生県=3.22, 未発生県=3.05, $F=5.70$, $p<.05$)、「東京オリンピックの予定通りの開催は、無理かもしれない」(発生県=3.43, 未発生県=3.27, $F=4.78$, $p<.05$)、「中国全土からの中国人の日本への入国を禁止すべきだった」(発生県=3.85, 未発生県=3.68, $F=4.75$, $p<.05$)、「流行の拡大を防ぐため、学校やデパートなど人の集まる場所への規制をすべきである」(発生県=3.52, 未発生県=3.35, $F=5.72$, $p<.05$)、「新型コロナウイルスの流行に関する色々な情報を集めたい」(発生県=2.93, 未発生県=2.79, $F=5.24$, $p<.05$)であった。「きちんと管理すれば危険な病気でない」以外は発生県の方がリスクを高く認識している結果であった。

対策行動については二項目のみ差が見られた。具体的には「消毒液を買う」(発生県=34.7%, 未発生=25.4%, $\chi^2=8.244$, $p<.001$)、「電車やバスに乗らない」(発生県=22.0%, 未発生県=15.8%, $\chi^2=5.1$, $p<.05$)であった。ただし、発生県の方が都市化した都道府県が多いため、購買や電車やバスに乗ること自体の可能性がもともと高いのかもしれないことには注意すべきである。なお、新型コロナウイルスに関する知識をたずねた Q6 においては有意差が見られた項目はなかった。

4) 新型コロナウイルスに対する意識の因子分析

Q3 と Q5 のコロナウイルスに対する意識に関する項目がどのような構造を持っているのかをみるため、因子分析を行った。まず、主因子法で因子を抽出し、プロマックス法で因子軸を回転した。分析結果は、表 3 および表 4 に示されている。

表 3 は、Q3 の各項目を因子分析した結果である。因子 1 は新型コロナウイルスへの不安を示す因子といえる。一方、因子 2 は新型コロナウイルスのリスクを客観的に見る因子といえる。ここで興味深いのは、因子 1 と因子 2 の間には相関がほとんどないということである($r=-0.009$)。つまり、リスクを客観的に見ているからと言って不安が低いわけではないということである。また、リスクには個人的なリスク(自分や家族が病気にかかるリスク)と社会的なリスク(社会が混乱するのではないかというリスク)があるが、この二つは因子においては分離されて

⁴ 比率の差を検定するためカイ 2 乗検定を適用した結果を示す。

いない。つまり、自分は安全だが、社会的なリスクは強く感じるというように分けて認知している人はあまり多くないのである。

表 3 新型コロナウイルスへの意識の因子分析(問 3)

		因子 1 不安感	因子 2 規制の強化
1	新型コロナウイルスに感染するのではないかと、不安を感じる	0.691	-0.136
2	新型コロナウイルスは、きちんと管理すれば危険な病気ではない	0.149	0.583
3	新型コロナウイルスは、自分にとって危険だ	0.708	-0.185
4	新型コロナウイルスにかかっても、重症化することは少ないので、心配していない	-0.080	0.870
5	日本でも中国の武漢のような大流行が起きる	0.610	-0.056
6	新型コロナウイルスの流行は、日本の経済を悪化させる	0.610	0.101
7	東京オリンピックの予定通りの開催は、無理かもしれない	0.667	0.103
8	中国全土からの中国人の日本への入国を禁止すべきだった	0.704	0.068
9	日本政府は、この問題で中国に配慮しすぎている	0.634	0.124
10	流行の拡大を防ぐため、学校やデパートなど人の集まる場所への規制をすべきである	0.718	0.051

表 4 は、Q5 の各項目を因子分析した結果である。因子 1 は、新型コロナウイルスについての情報を積極的に集め、この問題に主体的に考えているということを示す因子である。因子 2 は、メディアや政府などの情報に対する信頼感を表わす因子である。因子 3 は、ウイルスの脅威に対する無力感を表わす因子である。因子 4 は新型コロナウイルスの問題について人と話すかどうかを表わす因子である。なお、これらの因子の間には全て 0.36 以上の正の相関関係が見られた。

表 4 新型コロナウイルスへの意識の因子分析 (問 5)

		因子 1 情報収 集	因子 2 情報不 信	因子 3 無力感	因子 4 話し合 い
1	新型コロナウイルスに関するニュースを、 関心をもって見ている	0.933	-0.098	0.021	-0.080
2	新型コロナウイルスの流行に関する色々な 情報を集めたい	0.812	-0.016	-0.019	0.116
3	新型コロナウイルスの最新の状況を知りたい	0.947	-0.033	-0.032	-0.116
4	様々な情報について、何が正しいのかをい つも考えている	0.730	0.047	-0.001	0.029
5	新型コロナウイルスへの対応について、自 分でもいろいろと考えている	0.733	0.070	-0.106	0.174
6	対策を家族と話し合っている	0.402	-0.025	-0.024	0.502
7	対策を職場の人と話し合っている	-0.084	0.024	0.107	0.731
8	対策を立てても、個人ではどうしようもな いと思う	-0.069	-0.076	0.849	0.106
9	ウイルスの脅威の前には、人間の力は無力 であると思う	0.056	0.108	0.630	0.003
10	感染者のプライバシーを守るより、人々の 安全のために、もっと情報（感染者の市町 村など）を出すべきである。	0.476	0.188	0.154	-0.076
11	メディアの報道は楽観的すぎると思う	0.099	0.676	0.005	-0.026
12	メディアの報道には矛盾する情報もあると 思う	0.145	0.625	0.015	-0.092
13	新聞やテレビなど大手メディアの情報は信 頼できないと思う	-0.182	0.879	-0.098	0.150
14	政府の発表する情報は信頼できないと思う	0.021	0.669	0.054	-0.024
15	日本で新型コロナウイルスが流行したの は、中国政府に責任があると思う	0.335	0.223	0.160	-0.091

5) 感染拡大の抑制に向けた対策行動

人が多く集まる所に行かないことは、個人の感染リスクを軽減するだけでなく、社会的な流行を小さくするという意味でも重要であると考えられる。安倍首相は、多人数の集まるイベント開催の自粛とともに全国の小中高校に春休みまでの休校を要請した。制度的な取り組みだけでなく、個人の行動としても多人数が集まっている場所に行かないことは、対策行動として意味があると考えられる。

ただし、この対策行動の実行率は、個人のデモグラフィック変数によって大きな差が見られる。まず、図 2 に示すように、年齢によって人が多く集まる所へ行かないという比率は大きく異なる。高齢者の比率が高いのに対して、若年層は低い。また、職業別にみると、専業主婦や無職では高いのに対して、公務員や学生では比率が低くなっている（図 3）。

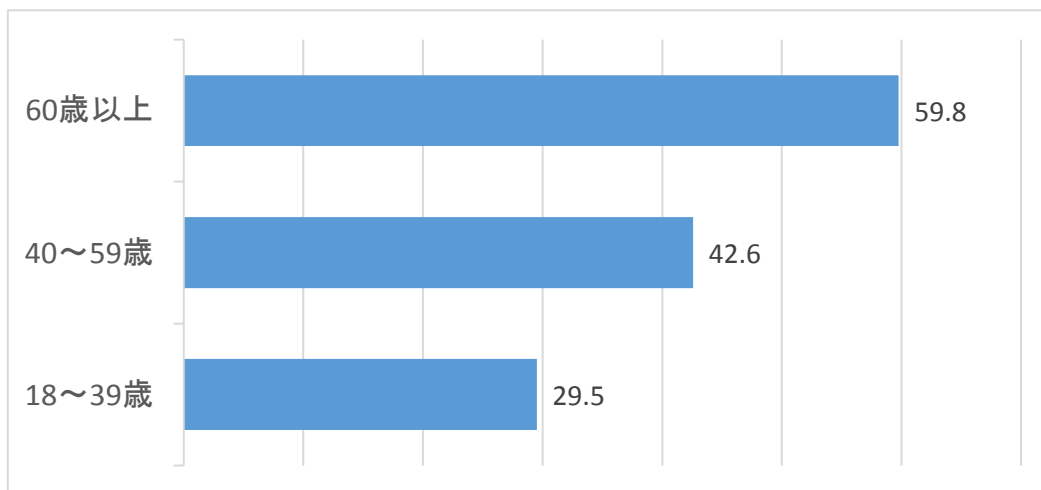


図 2 年齢別「人の多い所には行かない」の比率

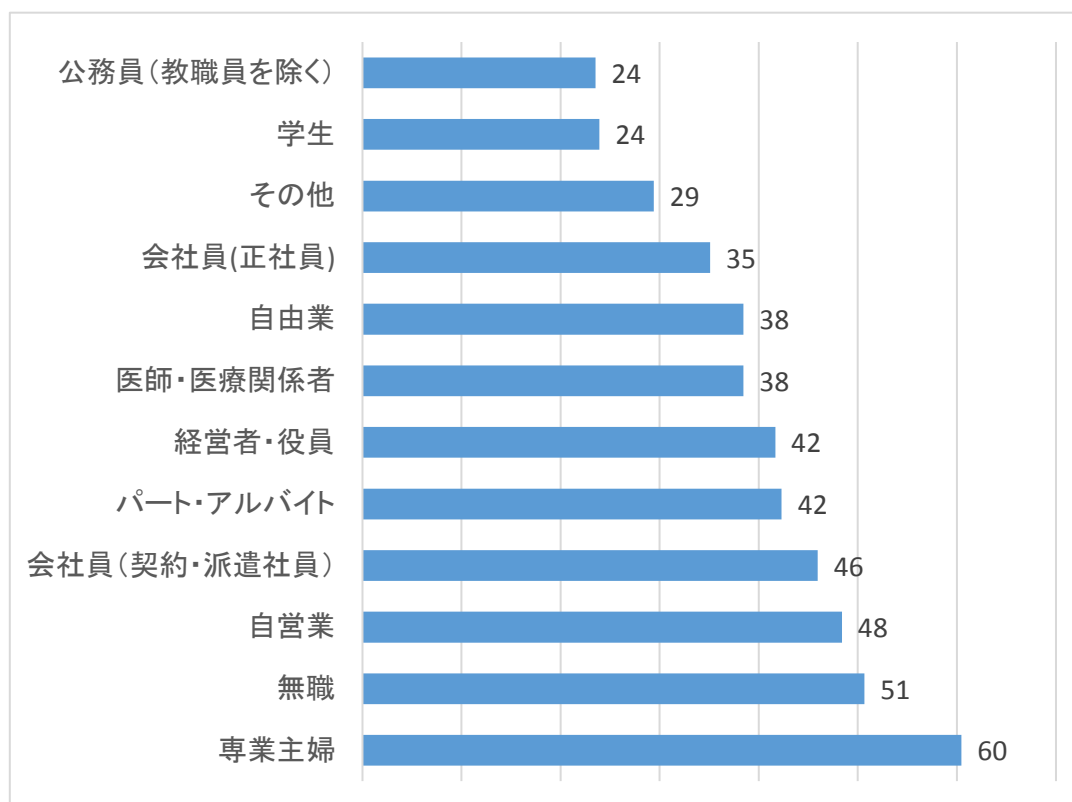


図 3 職業別「人の多い所には行かない」の比率

そこで、どのような要因が対策行動を促進しているのを見るため、「人の多いところには行かないようにする」(Q4-5)を従属変数として二項ロジスティック回帰分析を行った。用いた変数は表 5 の通りである。前述の Q3 と Q5 の因子分析で得られた各因子得点も独立変数に用いた。パラメータの推定結果が表 5 である。なお、モデルの適合度を表わす Cox-Snell の R² 乗は 0.193 であった。

結果をみると、年齢の係数がプラスで統計的に有意である。これは、年齢が高い人ほどリスクを回避しようとする傾向があることを示している。高齢者の方が感染した場合のリスクが高いとされており、客観的なリスクに対応した合理的な反応ともいえる。ただし、感染発生県であるかどうかは、「人の多い所には行かない」という行動との関係が見られない。

学生と公務員のダミー変数は統計的に有意ではなかった。職業別に比較すると、図 2 のように差があるように見えるが、これは実は年齢など他のデモグラフィック変数の差が反映している可能性が高い。

また、新型コロナウイルスへの不安感(Q5 因子 1)、情報収集 (Q5 因子 1)も「人の多い所には行かない」傾向と正の関係がある。不安の高いひとほど、また情報をよく収集する人ほど「人の多い所には行かない」と言える。一方、新型コロナウイルスに対する無力感 (Q5 因子 3)と他人との話し合い (Q5 因子 4)は、「人の多い所には行かない」傾向と負の関係がある。やや意外な結果であるが、人とよく話す人ほど「人の多い所に行く」結果になったのには二つの可能性がある。一つは、人とよく話す人ほど外向的で外出する機会が多いのではないかとこの可能性である。もう一つは、人とよく話すことは、必ずしもリスクを回避する行動につながらないという可能性である。

表 5 二項ロジスティック回帰分析の推定結果

	B	標準誤差	Wald
性別 (M=1,F=2)	.301	.162	3.48
年齢	.024	.005	20.41 ***
感染者発生県 (ダミー変数)	-.206	.160	1.66
公務員 (ダミー変数)	-.138	.636	.05
学生 (ダミー変数)	-.139	.414	.11
不安 (Q3 因子 1)	.577	.139	17.22 ***
規制の強化 (Q3 因子 2)	-.145	.095	2.32
情報収集 (Q5 因子 1)	.568	.142	16.04 ***
情報不信 (Q5 因子 2)	.274	.151	3.28
無力感 (Q5 因子 3)	-.466	.135	11.86 ***
話し合い (Q5 因子 4)	-.365	.117	9.75 **
定数項	-1.839	.402	20.90 ***

まとめ

新型コロナウイルスは、年齢により感染した場合のリスクがかなり異なることがメディアでは報道されている。ただし、本調査の回答をみると、新型コロナウイルスへの不安度については、明確な年齢差はみられない。しかし、実際の対策行動については大きな差があり、年齢が高い人ほど実行比率が高いという傾向が見られた。一方、調査時点において地域によって感染者の発生状況は大きく違っていたにもかかわらず、感染者が発生した都道府県かどうかは、リスク認知や対策行動においてあまり大きな差は見られなかった。

分析結果から、情報収集と外出を控える行動との間には統計的に有意な関係があり、政府が積極的に広報することで、人々が混雑する場所に集まらないようにする効果はあると予想される。ただし、若年層ではそういう行動をとる比率が高齢者に比べてかなり低いので(60歳以上59.8%に比べて18~39歳は29.5%)、若年層をターゲットにした広報活動をより強化すべきと考えられる。

参考文献

- 上市秀雄 (2012) リスク認知の個人差、中谷内一也編『リスクの社会心理学』、pp.69-85, 有斐閣
- 中谷内一也 (2009) リスク論は個人の対策行動を説明できるか—新型インフルエンザ拡大時のマスク着用理由、日本社会心理学会大会口頭発表 S28-04, pp.340-341.
- 及川晴・及川昌典 (2010) 危機的状況での認知, 感情, 行動の変化—新型インフルエンザへの対応、心理学研究, 81号 420-425.
- 郭中实、张荣显、沈菲 (2006) 理性思考与信息处理的深度：一个非典行为的预测模型 (Depth of Reasoning and Information Processing: A Predictive Model of SARS Behavior) 《中国传媒报告》2006 年第一期

質問文と単純集計結果 (N=800)

Q1 以下の色々な意見について、あなたご自身はどう思いますか。あてはまるものをそれぞれ選んで下さい。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
1 能力の高い人がもっと高い収入を得られるようにすべきだ	19.9	57.8	17.8	4.6
2 自由な競争の結果、社会の格差が広がってもやむを得ない	9.0	46.3	37.3	7.5
3 自分で努力をしない人にまで、政府は援助をする必要はない	17.9	49.5	26.5	6.1
4 経済成長よりも環境保護を重視するべきである	8.3	51.1	33.8	6.9
5 こわいことは何でもきらいである	17.9	46.8	29.9	5.5
6 危ないところには絶対近づかない	28.2	51.6	16.6	3.5
7 何事も安全第一である	36.9	48.6	11.0	3.5
8 権威ある人々には、つねに敬意を払わなければならない	5.9	27.9	52.5	13.8
9 伝統や習慣に疑問をもつ人は、結局は問題を引き起こすことになる	6.5	31.4	52.4	9.8
10 この複雑な世の中で一番よい方法は、指導者や専門家に頼ることである	4.5	30.6	52.1	12.8

Q2 あなたは以下のことを、どのくらいの頻度でしていますか。最も近いものをそれぞれ選んで下さい。

	1日5回以上	1日3-4回	1日2回	1日に1回	2~3日に1回	4~5日に1回	一週間に1回	一週間に1回未満	まったくしない
1 テレビのニュースを見る	15.1	21.1	25.0	21.5	2.9	1.4	1.6	2.3	9.1
2 テレビドラマを見る	2.5	7.0	12.6	17.9	11.5	4.9	6.8	9.6	27.3
3 新聞を読む	4.0	3.8	13.5	26.3	4.8	2.1	2.5	7.1	36.0
4 雑誌を読む	1.3	1.8	2.3	6.3	5.6	5.4	9.5	21.9	46.1
5 ネットでニュースを読む	14.6	20.9	18.0	23.3	5.3	1.6	2.1	4.0	10.3
6 LINEを使う	18.0	11.1	7.9	13.8	5.3	1.3	3.3	4.9	34.6
7 Twitterを使う	7.8	4.3	4.1	9.9	3.9	1.4	2.0	4.1	62.6
8 Facebookを使う	2.6	1.9	4.0	6.0	3.8	1.8	3.3	7.2	69.5
9 Instagramを使う	5.5	4.1	3.9	4.8	4.1	1.8	2.3	4.3	69.4
10 YouTubeを見る	9.8	6.0	6.0	13.5	11.3	4.4	7.6	13.5	28.0

Q3 最近の「新型コロナウイルス」の流行について、あなたはどのように考えますか。

	非常にそ う思う	ややそ う思う	どちらと も言えな い	あまりそ う思わな い	全くそ う思わない
1 新型コロナウイルスに感染するのではないかと、不安を感じる	20.4	36.0	24.4	13.1	6.1
2 新型コロナウイルスは、きちんと管理すれば危険な病気ではない	9.4	39.3	34.6	10.6	6.1
3 新型コロナウイルスは、自分にとって危険だ	13.9	29.0	39.6	12.4	5.1
4 新型コロナウイルスにかかっても、重症化することは少ないので、心配していない	5.0	22.5	37.1	22.8	12.6
5 日本でも中国の武漢のような大流行が起きる	8.8	25.9	41.0	18.4	6.0
6 新型コロナウイルスの流行は、日本の経済を悪化させる	27.9	45.8	19.5	4.1	2.8
7 東京オリンピックの予定通りの開催は、無理かもしれない	12.3	33.0	37.1	11.8	5.9
8 中国全土からの中国人の日本への入国を禁止すべきだった	30.4	31.1	26.6	7.1	4.8
9 日本政府は、この問題で中国に配慮しすぎている	25.1	28.7	33.9	8.9	3.4
10 流行の拡大を防ぐため、学校やデパートなど人の集まる場所への規制をすべきである	13.0	34.0	39.9	9.1	4.0

Q4 あなたは、新型コロナウイルスの流行から身を守るために、次のようなことをしていますか。あてはまるものを全てお選び下さい。(いくつでも)

	%
1 マスクを買う	48.3
2 消毒液を買う	29.6
3 飲料水や食べ物をいつもより多めに買う	8.5
4 いつも行く店舗には行かずに、インターネットで注文する	6.6
5 人の多いところには行かないようにする	43.4
6 電車やバスに乗らない	18.6
7 友だちと会わないようにする	5.4
8 睡眠を十分にとるようにする	31.9
9 手をよく洗う	59.4
10 外出するとき、マスクをする	43.4
11 あてはまるものはない	12.8

Q5 新型コロナウイルスに関する以下の文章は、あなたにどのくらいあてはまりますか。各々あてはまるものを選んで下さい。

	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
1 新型コロナウイルスに関するニュースを、関心をもって見ている	32.3	48.8	14.9	4.1
2 新型コロナウイルスの流行に関する色々な情報を集めたい	21.6	47.1	26.3	5.0
3 新型コロナウイルスの最新の状況を知りたい	30.0	49.3	16.3	4.5
4 様々な情報について、何が正しいのかをいつも考えている	24.8	52.4	19.0	3.9
5 新型コロナウイルスへの対応について、自分でもいろいろと考えている	17.1	47.3	30.1	5.5
6 対策を家族と話し合っている	13.3	40.1	31.8	14.9
7 対策を職場の人と話し合っている	10.3	27.4	32.3	30.1
8 対策を立てても、個人ではどうしようもないと思う	13.3	48.4	32.5	5.9
9 ウイルスの脅威の前には、人間の力は無力であると思う	16.9	50.0	29.1	4.0
10 感染者のプライバシーを守るより、人々の安全のために、もっと情報(感染者の市町村など)を出すべきである。	22.0	49.9	22.9	5.3
11 メディアの報道は楽観的すぎると思う	14.9	41.4	37.9	5.9
12 メディアの報道には矛盾する情報もあると思う	20.9	55.0	20.1	4.0
13 新聞やテレビなど大手メディアの情報は信頼できないと思う	10.6	39.9	43.8	5.8
14 政府の発表する情報は信頼できないと思う	16.8	42.6	36.1	4.5
15 日本で新型コロナウイルスが流行したのは、中国政府に責任があると思う	24.8	46.0	22.5	6.8

Q6 新型コロナウイルスについて、あなたのお考えをうかがいます。あなたが「正しいと思う」ものをすべて選んで下さい。(いくつでも)

	%
1 普通のマスクをしていても感染する	57.0
2 感染を防ぐため手洗いをすべきである	68.6
3 感染の可能性があるところでは、換気をよくするべきである	43.5
4 感染しても発症しない人がいる	55.9
5 WTO は中国への渡航禁止を勧告した	18.6
6 アルコールではウイルスを消毒できない	10.3
7 インフルエンザよりも致死率が高い	14.6
8 世界の死亡者数は、インフルエンザの死亡者数を上回っている	11.3
9 15歳以下の子供は重症化しない	14.5
10 エレベーターのボタンや階段の手すりからも感染する	50.6
11 あてはまるものはない	11.0